

## 授業概要

私たちが日常行っている音声によるコミュニケーションの仕組みを調べてみることは大変興味深いことである。音声はどのようにしてつくり、伝わり、聞き取られるのだろうか。音声そのものとは一体何だろうか。この点を出発点にして英語という言葉を通して体系的に音声を考察することがこの講義の目的である。この講義では、音声学の理論を学習だけでなく、実践的な発音練習も行いながら英語の音声の習得を目指す。この授業で身につけた音声学の知識は、英語学習者ならびに将来英語の教師を目指しているものにとって、英語ならびに音声のより深い理解に有益である。

## 授業計画

第1回	イントロダクション：授業の概要、成績の評価方法などの説明 音声学とは？：音声学と音韻論、音声と音素など
第2回	標準米国発音と標準英国発音：音声器官、発音のメカニズム
第3回	一般的な母音の分類、基本母音、IPA（国際音標文字）
第4回	英語の母音（1）：強母音/弱母音、緊張母音/弛緩母音；短母音
第5回	英語の母音（2）：長母音、二重母音、三重母音；弱母音、半弱母音
第6回	一般的な子音の分類
第7回	英語の子音（1）：閉鎖音、摩擦音、破裂音
第8回	英語の子音（2）：鼻音、側音、半母音
第9回	音節：音節主音、音節主音的子音
第10回	音節：子音の結合、音の脱落
第11回	小テスト（母音と子音の分類に関する筆記試験） 子音の結合、音の脱落、同化など
第12回	アクセント：語アクセントから文アクセントまで、強形と弱形
第13回	リズム：等時性、アクセントの移動
第14回	イントネーション（1）：音調群、音調核、下降調と上昇調
第15回	イントネーション（2）：下降調と上昇調の用法、特殊なイントネーション
第16回	定期試験（筆記試験）（この講義内容全体に関する試験）

## 到達目標

英語を通して音声を理論的に理解すると同時に、個々の英語の音を発音できるようにすることを到達目標とする。

## 履修上の注意

この講義で扱うのは音声であるため英語が苦手な方も受講できる。英語の音声に興味がある方ならば受講を歓迎する。テキスト、プリント等は日本語で書かれたものを使用する。授業中に積極的に発音練習に取り組むことが受講の条件である。

## 予習復習

配布するプリントには単元ごとに理解度をはかるチェック・ポイントを載せている。これを参考にしながら予習・復習を毎回行っていただきたい。新しい概念、専門用語がよく出てくるため、その理解し、吸収するために予習・復習は毎回行うこと。

## 評価方法

小テスト（30%）と定期試験（70%）の結果で評価する。もちろん出席状況、学習に対する姿勢が良好であることはこの講義の履修上必要不可欠である。試験の問題は、授業中に講義受講者に配布するプリントにあらかじめ提示した問題の中から出題する。詳細については初回の授業で説明する。

## テキスト

竹林滋・斎藤弘子『新装版 英語音声学入門』（大修館書店）適時、プリントを配布する。